

第 1 学期の終了にあたり

校長 田中 博久

晴天が続く盛夏のみぎり、皆様におかれましては、ご壮健で暑さを乗り切っていらっしゃるものと存じます。

本年度、幼稚部 6 名、小学部 11 名、中学部 10 名の計 27 名でスタートし、はや 1 学期が終了しました。この間、保護者の皆様を始め、多くの皆様方には、本校教育活動の充実・発展のために、御理解並びに御支援をいただき、心より感謝申し上げます。

本年度もまた、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、様々な教育活動が、残念ながら制限される状況が続きました。しかし、子どもたちはその状況の中でも、元気にそして精一杯、いろいろな教育活動に取り組んでおり、その姿がとてまたくましく、そして誇らしいと感じ、終業式の中で、しっかりと褒め称えました。

また、夏休みの過ごし方として、三つのことを子どもたちに話をしました。

一つは、「あいさつ（挨拶）をすること」です。「あいさつ」の「挨」には、相手の心を開くという意味が、「あいさつ」の「拶」には、相手の心に近づくという意味がそれぞれあるそうです。本校の子どもたちにも相手のことをしっかりと思いやることのできる子どもになってほしいという願いから、子どもたちに話をしました。

二つは、「しっかりご飯を食べる」ことです。これは、一学期の始めに話した「笑顔と頑張ることは友達です」を実行するための一つです。しっかり食べ、健康な身体を作ることが笑顔の基になりますので、夏の暑さに負けず、二学期も笑顔でいるために重要だと思っています。

そして、三つは、『はきものをそろえる』ことです。

曹洞宗の開祖である道元禅師の教えの中に「照顧脚下(しょうこきゃっか)」という教えがあります。これは、「足下を照らして顧みよ」という意味で、いつも自分の行動を振り返ってみなさいという教えだそうです。道元禅師は「自分の履き物をそろえられないような人に何ができるか。まずは履き物をそろえることから始めなさい。」と弟子たちに教えていたとされています。自分の身の回りのことをしっかり行うことが新たな行動の基本になることであると言っているのでしょうか。

長野県にある円福寺の藤本幸邦ご住職が、生前、この道元禅師の教えをもとに詩を作られています。とても有名な詩です。皆さんの中にもご存じの方もいらっしゃると思いますが、最後にその詩をご紹介します、ご挨拶といたします。

『はきものをそろえる』

はきものをそろえると心もそろう。

心がそろうと、はきものもそろう。

ぬぐとくにそろえておくと、はくときに心がみだれない。

だれかがみだしておいたら、だまってそろえておいてあげよう。

そうすればきっと、世界中の人の心もそろうでしょう。